

7月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2012. 7. No. 52

カンボジアも田植えの季節 ～汗をかいて作ったお米～



去年よりも広大な土地での田植え



もう手馴れた手つきで進んでいく



崩れた道路の補修

皆さんこんにちは。今カンボジアでは本格的に雨季中の小乾季に入っています。毎日降っていたスコールが小雨に変わり、たまにしか降りません。今年は温暖化のせいかわかりませんが、雨季が来るのが例年より早くなったような気がします。昼夜の寒暖の差があり、子どもたちの風邪には要注意の季節です。

さて、今回のDream通信では、6月中に SAJ Farm で行われた田植え式、ワタミ社員ツアー、雨季に入ってから園内の農作業の様子についてお伝えします。

田植え

6月10日、早朝食事を済ませ、朝6時に子どもたちと職員全員がコンポンチュナン州の SAJ Farm へバスで出発しました。毎年6月から7月、雨季になり、土が十分に湿った頃、子どもたち全員で田植え始めのお手伝いをする『田植え式』を行いました。今回で3回目となる田植えでは、『夢追う子どもたちの家』77名の子どもたちと孤児院全職員、プノンペンに駐在する職員も合わせて総勢94名での参加となりました。

午前中は大きい子・中くらいの子・小さい子ごとに、子どもたちをグループ分けし、どんどん稲を植えていきました。そして大きい子・中くらいの子のグループは予定の時間よりもうんと早く終わり、田植え以外の仕事も手伝いました。中くらいの子のグループは草刈、大きい男の子のグループは田んぼの余計な土をスコップで掘り、でこぼこの道に乗せて道路の補修を行いました。そしてだんだん日が高くなりジリジリとした暑さが迫る中、大きい男の子たちのグループは汗をだらだらと流しながら道路の補修をなんとか終わらせ、お昼休みに入りました。

午後、後半からは約半数の子どもたちで一気にもう1つの田んぼの田植えを行い、他の子どもたちはレモングラスの定植、除草、なすの収穫等を分担して行いました。終了後は農場長の許可を得て、子どもたち皆が池の中へ入って泳いだり、汗を流したりして遊びました。

今回園の農園とは異なるとても大きな農場で様々な作業を経験しました。大変な作業でしたが、これを活かして園の農場でも子どもたち自らが、どんどん野菜作りに励んで欲しいと思います。

ワタミグループ社員ツアー

6月14日、ワタミグループから総勢45名の社員の皆さんが『夢追う子どもたちの家』を来園しました。ワタミの外出、介護、タクシヨクと様々な職種からお客様が来園しました。子どもたちはいつも園に会いに来てくれる渡邊代表理事の会社ということで、ワタミグループの会社について皆興味深々でした。

今回のツアーで、リアップ・マイ、ドン・スレイノツの里親様も来園してくださいました。マイは前日からどうしていいかわからない、というような緊張した面持ちでしたが、里親様やお客様と遊んでいるうちに一気に表情が明るくなっていました。

夜にはいつも行っている日本語授業にワタミグループ社員の皆様に協力してもらい、会話の練習を行いました。前日までに聞きたいことをたくさん用意していた子どもたちは、どんどん会話を進め、楽しんでいました。また緊張しやすい子は準備した言葉をほとんど忘れてしまったという場面もありましたが、単語だけでもなんとか伝わることを学びました。皆さんに手伝って頂いたおかげで、いつもとは違った楽しい授業になりました。授業が終わった後も、会話を楽しんだお客様と一緒に交流を続け、良い思い出ができました。

帰りには伝統舞踊の披露、そしてお客様からはダンスの披露があり、大変盛り上がりました。子どもたちの中にはワタミの外出で働いてみたい、介護で働いてみたい話す子もあり、いつか子どもたちがワタミグループで働ける日が来たらと願っています。

雨季に入ってから農作業

4月頃から雨季に入り、毎日のように雨が降った結果、園内は草だらけになってしまいました。そこで農作業時には大きい子どもたちで草刈り機を使い、園内をきれいに保っています。

裏農園では、子どもたちのグループ農作業で使っていた畑を撤去した後、以前の様子が想像できないほど草に覆われてしまいました。そこで、ヤンマー様から寄付で頂いた日本の古い耕運機を使い、裏農園の広い土地を耕し始めました。使い方をSAJ Farmの職員に習い、それを一番体の大きい子に教えました。すると、大きな機械に興味を持ち、力いっぱい動かし、どんどん作業を進めてくれました。すぐに疲れて飽きてしまうかと思いましたが、一番力のある仕事を任されて嬉しいようで、『またやるから任せて！』と、やる気は十分のようです。

まだ耕起は始めたばかりですが、あと2、3週間もすれば雨季の前の状態に戻りそうです。そしてネットや支柱を組み立て、前回よりも広大な土地で再びグループ農作業を始めます。大きい子は野菜の支柱を立て、小さい子は雑草を抜き、皆で協力して野菜を作り、農業を体で学びます。そしてこの雨季の時期を生かして豊作を目指し、子どもたちみんなでおいしく食べたいと思います。



里親様と照れながら食事するマイ(右)



お客様参加型の日本語授業



耕運機で雑草ごと鋤きこんでいく



大量の刈り草で有機肥料作り